

公立大学法人和歌山県立医科大学

令和元事業年度の業務実績に関する評価結果

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の令和元事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第 78 条の 2 第 1 項の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の令和元年度業務実績に関する年度評価を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第 3 期中期目標期間の 2 年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・診療それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

令和 2 年●月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

- 1 総 評
- 2 特色ある取組等

第2 項目別評価

- 1 教育研究等の質の向上
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 国際化

- 2 地域貢献
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 地域の活性化

- 3 業務運営の改善及び効率化
 - (1) 法人運営の強化
 - (2) 人事の適正化・人材育成等
 - (3) 事務等の効率化・合理化

- 4 財務内容の改善
 - (1) 財務内容の健全化
 - (2) 自己収入の増加
 - (3) 経費の抑制
 - (4) 資産の運用管理の改善

- 5 自己点検・評価及び情報提供
 - (1) 評価の充実
 - (2) 情報公開及び情報発信

- 6 その他業務運営
 - (1) 施設及び設備の整備・活用等
 - (2) 安全管理
 - (3) 法令・倫理等の遵守
 - (4) 基本的人権の尊重

第1 全体評価

1 総 評

和歌山県立医科大学（以下「大学」という。）は、県内唯一の医科大学として、本県の先端医療・地域医療を担うとともに、医育機関としての使命を負っており、より良い大学教育と地域医療を推進するため、多彩な取組を精力的に行っている。

令和元年度は、新たに地域貢献を大きな柱の一つとして位置付け、その取組をスタートさせた第3期中期計画の2年目であり、平成30年度の業務実績評価結果を踏まえ、理事長・学長のリーダーシップのもと、全ての分野において職員全員が一丸となって取組み、着実な進展をみせたと認められる。

令和元年度計画161項目の業務実績を確認したところ、3項目が「年度計画を上回って実施している。」、151項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、7項目については、「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。

特に、以下の取組等について評価する。

【教育】

- 医学部において、卒業試験と国家試験の成績の相関を分析し、教育評価部会において、卒業試験問題の見直しを行うなどの対策を行った結果、新卒者医師国家試験合格率が100%を達成した点を評価する。

【診療】

- 平成29年度に策定した経営改善計画に基づき、一定の改善に取り組んだ結果、令和元年度決算において、年度計画を上回る経常黒字を確保することができた点を評価する。
- 医薬品や診療材料等について、年間値引き目標値を設定することで、購入経費の削減を図った点を評価する。大幅な購入経費の削減を実現できたのも、全国の大学病院等の購入実績を参考に、ベンチマークによる価格交渉の結果であると評価する。

一方、以下の点について一層の努力が求められる。

【診療】

- 臨床研究中核病院について、平成31年3月に厚生労働省に申請書類を提出し、同年11月に実地調査を受検したが、承認には至らなかった。今後、臨床研究中核病院の承認について、引き続き早期承認を目指した取組みを期待する。

【研究】

- 「How to get 科研費セミナー」等を開催し、科研費獲得のポイント等について、研究活動活性化委員会委員とURAが指導を行ったが大きな成果は得られていない。また、県内企業等からの共同研究等に関する問い合わせを受け、URAが研究者を検索、マッチングし、産官学連携に取り組んだが、特許出願件数、特許実施等件数及び競争的資金の教員応募率、獲得件数、獲得額等で目標値に届かなかった。今後の取組みに期待する。

【地域貢献】

- 他病院と共同保有する特許について、民間事業者から共同開発契約及びライセンス契約の申し入れがあったが、現時点では交渉段階に留まっており、具体的な成果には繋がっていない。今後は、具体的な成果に繋がるよう、積極的な取り組みに期待する。

2 特色ある取組等

【研究】

- 先端医学研究所に、高齢化に伴い増加が予想される疾病である、がん・感染・循環器疾患などの予防・診断・原因解明を行う部門として「分子病態解析研究部」を開発し、研究実施体制の整備を進めた。

【診療】

- 附属病院に、がん診療体制の充実を図るため、膵がんに特化した「膵がんセンター」を設立し、膵がん診療を推進する体制を整えた。
- 紀北分院に、脊椎ケア・眼科（水晶体再建術）及び「認知症疾患医療センター」を設置し、先進的医療を実施する体制を整えた。

【地域貢献】

- 汎用画像診断装置用プログラム「Join」の本格運用を開始し、救急患者の受入体制を一層強化した。
- 地域医療機関と連携し、和歌山県全体の脳卒中診療の充実・発展を図るため「脳卒中センター」を設置した。

第2 項目別評価

評定の区分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載 52 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部〉

- 医学部と保健看護学部の1年次の合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が話し合うケアマインド教育を行った結果、障害や疾病を有する方々の精神的・社会的背景を理解する能力を向上させた点について評価する。

〈医学部〉

- 臨床実習の実習期間を59週間から62週に延長することにより、臨床実習の充実化が図られた点を評価する。
- 臨床医学の研究は十分に行われていると評価するが、全国的に、研究医の不足が重要な課題となっている。大学において、研究医に適性のある学生をリードし、育成するシステムが構築されることを期待する。

〈保健看護学部〉

- 看護師・保健師について、学年担当及びゼミ担当教員を中心として学習支援を行った結果、新卒者の国家試験合格率が100%となった点を評価する。
- 地域医療を支える専門職としてのあり方を修得するため、1年次の早期体験実習をはじめ、2年次及び4年次の統合実習で参加型の実習を実施した点を評価する。

〈薬学部開設関係〉

- 令和3年4月に開設が予定されている薬学部について、教員予定者54名の選考を行うとともに、教育課程等を決定し、薬学部設置認可申請を行った点を評価する。今後は、医療系総合大学として、特徴ある教育を実施する創意工夫を期待する。

〈大学院医学研究科〉

- 多様な履修形態の導入を目的にした「医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラム」について、学部生への周知を図り、大学院準備課程（いわゆる M. D-Ph. D コース）の登録の促

進等を行った結果、博士課程入学者数が増加したことを評価する。今後は、さらに当該プログラムを充実させることにより、医学部基礎系に進む学生が増えることを期待する。

【指摘事項】

〈医学部〉

- 医学部学生の early exposure（入学後早期の体験実習）について、現在の方法でどの程度効果を上げているのか検証が必要である。具体的な効果検証の方法の整備に取り組みたい。

〈薬学部開設関係〉

- 薬学部の優秀な学生を獲得するために、熱心な努力が継続されているが、和歌山県に隣接する県外地域の高校に対して、もっと広報が必要であると考え。必要となる対策に取り組みたい。
- 薬学部開設に伴い、全学的なネットワークの統一が求められる。必要となる対策に取り組みたい。

〈大学院医学研究科〉

- 医学部基礎系の入学者について、依然として増加する傾向がみられない。今後は、基礎研究の魅力を高めることにより、入学者が増加するよう取り組みたい。
- 大学院生の構成について、臨床系のメンバーが中心になっているが、臨床系の大学院生が、研究に専念できる期間がどの程度であるか分析が必要である。十分な研究専念期間を確保し、基礎系の研究室で活躍できる機会を増やすなど、大学院の活性化に取り組みたい。

(2) 研究

【評定】 C（やや遅れている。） 自己評価

年度計画の記載 10 事項中 7 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、3 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 臨床研究センターでは、臨床研究推進のための総合的な支援、特定研究助成プロジェクト、若手研究支援助成等により、優れた学術研究を行っている研究者に助成し、研究活動の活性化を進めるなど、特徴ある取組が行われている点について評価する。しかし、助成採択者は、医学部臨床系教室の研究者に偏りがあるため、今後は、基礎系の研究者・大学院生等の採択についても積極的に取り組みたい。
- 先端医学研究所に、「分子病態解析研究部」を設置したことを評価する。令和 2 年 1 月に設置したばかりであるが、今後、どのような研究の推進を実施する構想であるか等、発展を目指した具体的なビジョンを示すよう取り組みたい。
- オンラインでの閲覧を可能にする学術書専門プラットフォームから、電子書籍 108 冊を購入したことで、図書館資料の充実が図られた点の評価する。

【指摘事項】

- PubMed 収録の英語原著発表論文件数は、ほぼ横ばい状態である。論文件数は、研究状況を示す重要な指標の一つでもあるため、一段の努力に取り組まれない。
- 研究活動が活発な講座が限定されている。全学的な広がりには欠ける点が課題であると考えられるので、研究活動の活性化について具体的な対策に取り組まれない。
- 臨床研究センターにおいて、研究に関する様々な取り組みが行われているが、医学部基礎系の教室のアクティビティー評価や、その活性化策について特徴的なものがないことが課題である。今後、課題の改善に向けた具体的な対策に取り組まれない。
- 競争的資金への教員応募率は 85%であるが、基礎系の教室に所属する教員については 100%を目標として取り組まれない。

(3) 診療

【評定】 B (概ね順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 31 事項中 30 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院・紀北分院〉

- 医療安全監査委員会、特定機能病院間の相互チェック（ピアレビュー）で、平成 30 年度に指摘のあった「医師のレポート提出件数の増加に取り組む。」について、インシデント・アクシデントレポート・緊急コール報告を含め 238 件の報告があった点を評価する。今後も、継続して取り組むことを期待する。
- 長らく感染対策は十分と言えなかったが、感染制御対策に積極的に取り組んだ点を評価する。新型コロナウイルスの感染に揺らぐ中、感染制御対策において、県内医療機関のリーダーとしての力を発揮することを期待する。
- 必修化された診療科目の研修を円滑に実施するため、新たに精神科の中核病院である「県立こころの医療センター」など 4 施設の研修病院・研修施設を追加し、充実した臨床研修プログラムを作成した結果、令和 2 年採用研修医数（医科）が 64 名と前年度と比較して 13 名増加した点を評価する。今後、さらに教育効果が上がるよう、改善努力を継続することを期待する。
- がんゲノム医療について、平成 30 年 10 月に遺伝子検査外来を開設し、これまで自費診療による遺伝子パネル検査を実施してきたが、令和 2 年 1 月から新たに保険診療に対応したパネル 2 品目について検査を開始するなど、先進的医療を積極的に推進している点を評価する。

〈病院運営〉

- 病床稼働率が対前年比で 1.1%アップした結果、88.8%となった点を評価する。また、入院診療単価についても対前年費で 2,122 円/人日アップした結果、83,101 円/人日となった点についても評価する。今後は、平均在院日数についても短縮傾向となることを期待する。

【指摘事項】

〈附属病院本院・紀北分院〉

- 入院時支援（PFM [Patient Flow Management]）に対する取り組みが遅れている。今後は、業務の効率化、患者の利便性、安全性のために積極的にPMFに取り組まれない。
- 総合診療医の育成では、専門医養成数の増加に繋げるための魅力的なプログラムが求められる。今後の取り組みに期待する。
- 病院ホームページに掲載されているクリニカルインディケーター（臨床指標）の公表が遅れているので改善が必要である。
- 後発医薬品の採用について、数量ベースでは80%に達しておらず不十分な状況である。今後の取り組みに期待する。

〈紀北分院〉

- 紀北分院の患者紹介率は48.98%であるが、一方で、患者逆紹介率は42.58%と低い水準である。紀北分院が持つ専門性を周知する等により逆紹介率についても高い水準となることを期待する。

（4）国際化

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 若手研究者が代表者として主催する国際シンポジウム等の開催に対して、若手研究者の支援を目的に2件（各2,000千円）の助成を行った点を評価する。今後は、当該活動の費用対効果の検証が求められる。

【指摘事項】

- 国際化への取り組みが進展していない。今後は、積極的な国際交流や、海外からの学生の受入など、抜本的な対策を実施することにより、国際化が進展することを期待する。
- 留学生の数が少ない点について、留学生を受け入れるにあたり、具体的にどのような障壁があるのか分析することを期待する。また、留学の魅力が不足していないかといった視点からの分析も求められる。

2 地域貢献

（1）教育

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 紀北分院において、総合診療医の主な活躍の場である「地域包括ケアシステム」について修練・研究の場として開設した「地域包括ケア病床」を引き続き実施した点を評価する。また、総合診療等の地域医療に関心のある臨床研修医の教育等に取組んだ結果、初期臨床研修医の受入数が延べ 29 人となり、前年度の 7 人と比較して大幅に増加した点について評価する。
- 医学部、保健看護学部、薬学部に進学を希望する高校生を対象とした説明会を開催し、進学個別相談を行い、志願者の増加に努めた点について評価する。
- 採用臨床研修医の研修終了後の県内定着率について、初期臨床研修医 2 年目 73 名のうち、3 年目に県内で後期研修を実施する者が 66 名であった。その結果、県内定着率が 90.4%となり、年度目標である 85.3%を大きく上回った点について評価する。
- 看護師の特定行為研修について、令和元年度の受講生は、4 期生 11 名と 5 期生 10 名の計 21 名であった点を評価する。今後も継続して輩出することを期待する。

【指摘事項】

- 地域の医療機関等の看護職に対して、知識及び技能向上のための研修を実施する計画に基づき、和歌山県全域の医療機関・訪問看護ステーション・老健施設等に勤務する看護師を対象とした受け入れ事業を開催したが、参加人数が延べ 19 名と低調な状況であった。今後、より多くの看護師が参加できるよう、更なる取り組みに期待する。

(2) 研究

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載 5 事項中 4 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 広報部門をより一層充実させるため、研究で得た知見をプレス発表するほか、県民講座や動画で配信する取り組みに期待する。

(3) 診療

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 先端医療機器を活用したがんへの対応や、がんゲノム医療など高度で先進的ながん診療等を行っている点を評価する。また、その成果を地域の医療施設等においても実施できるよう積極的に取り組んでいる点を評価する。

【指摘事項】

- 青洲リンクは、災害時の生命線である。今後、より多くの医療機関や連携登録医の参加等を促し、更なる診療情報の共有により、医療機関の連携を推進するよう期待する。
- 医療機関連携において、受診報告書の返信率 100%は当然のことである。今後は、経過報告、あるいは退院報告のいずれかを含めて 100%を達成するよう取り組まれない。
- 遠隔救急の実績について、平成 30 年度 9 件から令和元年度 64 件と大幅に増加したが、遠隔外来の実績については、平成 30 年度 67 件から令和元年 43 件と減少している。今後は、遠隔医療に関して、組織的な取り組みが一層要求される。

(4) 地域の活性化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 県民向けの市民講座「最新の医学・医療カンファランス」や出前事業等を開催することにより、一般県民に対して継続的に啓発活動に取り組んでいる点について評価する。
- 地域医療関係者向けの「臨床・病理カンファランス」を実施することにより、地域の医療機関等の活性化に貢献している点について評価する。

【指摘事項】

- 紀北分院の紹介率・逆紹介率は対前年比で減少しており、待ち時間に関する不満足度も中期計画値や年度目標を満たしていない。今後は、具体的な対策により改善することを期待する。

3 業務運営の改善及び効率化

(1) 法人運営の強化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 理事長、副理事長、病院長をトップとして、ガバナンス体制を整備し、法人の健全な運営に当たっている点の評価する。

(2) 人事の適正化・人材育成等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 病院部門の人件費比率(人件費/経常収益)について40.7%と目標値を達成した点を評価する。今後は、医師の働き方改革の全面的施行に向け、労働基準法の周知徹底などの整備が求められる。
- 教職員の定数管理について、経営改善計画における定数を遵守した点を評価する。また、各所属の業務量を勘案した上で、必要などころに非常勤職員の配置を行うなど、適正配置に努めた点を評価する。今後も、適正な定数管理に努めるとともに、経営に係る職員の能力・資質の向上を図ることにより、業務運営の改善・効率化が進展することを期待する。

【指摘事項】

- 定員管理は行うべきであるが、必要に応じて臨機応変で柔軟な人材登用と確保が望まれる。また、労働環境の向上には十分に配慮すべきである。特に、今回の新型コロナウイルスの感染等、感染症対策は十分な注意が必要である。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、法人全体の経営構造が大きく変化することが予想される。今後は、オンラインによる業務運営の改善及び効率化等が求められるので、必要となる対策を検討されたい。
- 今後、医療者の働き方改革に伴う人件費の増加や、施設整備の大規模改修などが見込まれることから、引き続き収支バランスのとれた健全な法人経営に向けて、努力することが求められる。

4 財務内容の改善

(1) 財務内容の健全化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づく収入の増加や経費の抑制に取り組んだ結果、令和元年度の経常利益は6億8千万円の黒字となり、年度計画上の目標値である2億円を上回ることができた点を評価する。今後は、薬学部の開設に伴い、必要経費が拡大することが想定されるが、引き続き、法人が一丸となり、安定的な経営改善に取り組むことを期待する。

(2) 自己収入の増加

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載3事項中1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 平成31年4月に青洲基金を創設し、修学支援や教育研究の向上及び附属病院の環境整備事業等の使途に分けて寄付を募った結果947万円の寄付金が集まった点を評価する。

(3) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 管理的経費の削減、人件費を含む経費の抑制を行うことができた点を評価する。また、査定率の縮減・病床稼働率及び利用率の向上、新規外来患者数の獲得などに取り組んだ結果、経常利益が年度計画上の目標を上回ることができた点を評価する。

【指摘事項】

- 原価計算は大学では困難な作業である。原価計算を導入するのであれば、大学部門間の横断的な分析ではなく、各部門のトレンド分析を活用することを検討されたい。
- 病院の経営成績が順調な中、変動費である医療用材料費率が1.26%アップしている。その理由としてキイトルーダやアブラキサン等の高額医薬品の使用量の増加が考えられるが、さらなる価格交渉への取り組みに期待する。

(4) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

5 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 平成 30 事業年度の業務実績に関する自己点検・評価結果について、大学ホームページに「平成 30 事業年度における業務実績報告書」として公表した上で、継続的に業務改善に取り組んでいる点について評価する。
- 公益財団法人日本医療機能評価機構による本審査で指摘された6項目のうち、2項目（病棟医療機器の定期点検、抗がん剤調製時の暴露対策）について改善を行った結果、B評価を得た点について評価する。しかし、残りの4項目（患者が理解できる説明、プライバシーの適切な保護、倫理的課題への取り組み、職員への適切な教育）について、継続して改善を行い、再度、確認検査を受けたが、依然としてB評価であったことから、一定の要因分析が求められる。

(2) 情報公開及び情報発信

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

6 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 新型コロナウイルスの感染拡大部防止に向けた危機管理の他、風水害や津波対策等につい

て、不断の準備・訓練が求められるため積極的に取り組まれない。

(3) 法令・倫理等の遵守

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 研究不正防止のための講習会、研究における倫理審査や安全な実験のための講習会の開催について評価する。引き続き、法令・倫理等を遵守し円滑な研究遂行のための管理を行うことを期待する。

(4) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 全職員を対象とした「全学人権・同和研修」では、外部講師により人権問題について、正しい知識を再認識し、人権意識の醸成が推進できた点について評価する。

【指摘事項】

- 従前からの全学人権・同和研修に加えて、大学における新型コロナウイルス感染者及びその家族に対するいわれのない「いやがらせ」防止に向けた取り組みを期待する。
- パワハラ、セクハラはどの組織にもあるという認識の下に、今後も、職員相談及び公益通報等に関する周知を継続し、相談体制の更なる充実に努めるよう期待する。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院・医学部教授 東京大学大学院医学系研究科分子神経学特任教授
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
西 野 仁 雄	名古屋市立大学名誉教授 名古屋市立大学元学長
三 木 義 男	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授 東京医科歯科大学難治疾患研究所教授

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和2年7月7日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和2年8月6日開催

○大学収容定員等（令和2年5月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	624
保健看護学部	320	324
医学研究科	196	160
修士課程	28	18
博士課程	168	142
保健看護学研究科	33	42
博士前期課程	24	23
博士後期課程	9	19
助産学専攻科	10	9

○教職員数（令和2年5月1日現在）

総 数（人）	1, 823
教員	386
事務職員	167
技術職員	7
現業職員	0
医療技術部門職員	327
看護部門職員	932
研究補助職員	4

（出典）令和2年度和歌山県立医科大学概要